

建学の精神	基本的生活習慣(躰)の育成をとおして、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校教育目標	【input】【thinking】【output】《reflection》4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的生活習慣と規範意識の確立 3. 新しい生活様式を踏まえた安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	アクティブラーニング等で授業改革	各教科においてICTを活用したり、ALの視点を取り入れた授業を行って頂いているが、まだ全体に浸透していない。	ICTを活用して知識・技能の速やかな定着を試み、思考力や主体的に学習に取り組む姿勢を育成するための時間を生み出す。	ICT環境が整っているコースにおいては、積極的にICTを活用した授業に取り組む。また、各教科で研究授業や参観授業を実施してもらう。次年度、生徒にタブレットを持たせることを想定し、どのような活用方法があるか視野を広げていく。	ICTを活用される先生は、設備のある教室をこまめに予約しながら授業に取り組んでこられた。次年度の1年生は全教室にICT設備がある状態で授業に取り組めるため、さらにICT活用が進み、授業内容にも変化があると期待している。	C	C	C	ICT環境の整備については計画が進み、次年度1年生については生徒、教員ともにクロムブックを活用してH/Rや授業に取り組む準備が整った。今までは設備のある教室を教員間で取り合っていたが、第1学年ではそれがないと大きな進歩につながる。授業における活用が一部の教科にとどまらないように、クロムブックの活用に関する研修と利用する場を増やし、使った方が楽になることが実感できるようにしたい。
	進学	進路指導の充実	普通科の各コース内で学力差が広がりがつある。各コースの実状に合わせた取り組みを段階的に計画立案している。	進路実現に向けて、自らが主体性を持って学業に取り組む、満足した進路を勝ち取れるようサポートする。	普通科コースにおいては、興味・関心・適性などから将来の自分をイメージさせ、そこに到達するために必要なプロセスを進学セミナーなどを通じて学ばせる。進学特進コースでは、課外授業や特別講習を通じて学業向上をはかり、進路実現のための土台を築いていく。	進路決定に必要なアプリやコンテンツの紹介により、選択肢を広げることができている。しかし、自身の興味・関心・適性につながらないようには思えない。将来に対する想像力に欠いた生徒が増えたことが要因である。そのほとんどが限界や壁といった不安要素がある。	D	C	B	業務の内容や重要性を理解し、必要なものとしてしっかり見極めることをしてきた。次年度は業務のスリム化を計っていきたい。生徒の進路保障を第一とし、教科や面接、小論文指導など設定サポート体制を整えてきた。しかし、その多くは個人の力(努力)のもとであり、組織的な体制とはほど遠いものを感じる。特に面接や小論文指導などは、誰でもできるようにしていきたい。生徒の窓口である担任が指導できる体制を整えていけるのが理想である。先生方に支えられ、一般選抜の最後まで粘り強い指導をいただき感謝している。
	就職		就職意識の高揚を図るためのセミナー実施と外部機関と連携させ、最後まで粘り強い指導を行っている。	明確な志望動機を持たせ、進路実現のために生徒自ら計画的に取り組むことができるようにする。	就職セミナーにおいて、興味関心のある職種調べと自己の適性を知り、ミスマッチからくる早期離職をなくす。また、面接指導など実践的プログラムを実施する。	1年間の流れを見越し、2年次におけるセミナーでは仕事の意義や自己適性を認識し、インターンシップに向けた授業を展開中。3年次にはセミナーや夏期課外・就職相談会をふまえて就職活動を行った。	B	B	B	就職指導部としては主に面接指導の企画・立案・実施を行った。また、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のためさまざまな行事の変更等があったが、夏休み中は企業訪問に出かけ、就職相談会を経て、企業先を決定。就職推薦会議を終え、応募書類の作成・面接指導の時期と休校が重なり、担任の先生と家庭と生徒が協力して事に当たった。また、推薦会議終了後に辞退した生徒や就職と進学の志望を決めきれない生徒があり、個々の生徒との対話の時間をもち、指導中である。
	情報	学習の記録、振り返りの実施	・学習記録機能の利用がほとんど行われていない。 ・教科指導においては考査出題範囲の連絡での活用が見られるようになった。	・進路実現に向けた学習記録や振り返りが定着する。 ・コース毎の考査出題範囲を配信する。	・教務、進路部と連携しつつ、目的意識を持った活用を促す。 ・コース毎の考査出題範囲を共有機能で教科担当から集めたものを利用する。	学習記録については連携不足により、思うような改善を図ることができていない。考査範囲の範囲のまとめであれば、担任それぞれの考えがあり、一律の方法が望まれている。この目標は見直しが必要である。	C	B	C	教職員がタブレット端末導入を行った。今後はそれをいかに活用するかを考え、研修などを通して実践につなげていきたい。今年度の目標などは思うように進まないものが多いが、目的や目標を絶えず見直ししながら、着実に進めていきたい。
2. 基本的生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	特別な理由以外の欠席・欠時等の生徒は少ないが、遅刻の多い生徒は目立つ傾向にある。	出欠入力状況を日々確認し、担任や教科担当が正確なデータ把握して生徒指導に活用する。	出欠入力状況を定期的に確認して、朝会連絡や紙面配布にて発信する。BLENDの未入力チェック機能の利用を学年部長に促し、定期的に入力状況を確認して頂く。	学年部長から担任へ、担任から授業担当者へ未入力チェックがなかなか徹底できなかった。今年度末に常勤全教員へクロムブックが貸与され、H/Rや授業に出席簿を持って行くことなく、その場で直接BLENDへの入力を行うことができている。	B	B	B	次年度は全教員にクロムブックが貸与されることになり、出欠の入力についてはある程度の徹底が可能になるはずである。徹底する仕組みとしては、出席簿を廃止することで出席簿に頼ることをやめ、BLENDの中身を日頃から点検する癖を身に付ける必要がある。点検する項目を明確にし、楽な作業で流れが作れるような仕組みを作っていく。
	生徒指導	校内外で社会的規範意識の確立	人間関係のトラブルが多い。特にSNSを中心として、見えにくいところでの問題が多く、一年生の時より注意が必要である。	人の気持ちを考え発言をし、行動をするよう心がけさせる。生徒自身が主体的に考えて行動できるようにさせる。	四月初旬における「ネットモラル教室」などのネット犯罪被害に対する意識を高めさせる。SNSにおける問題・トラブル防止を生徒に訴えかけ指導していく。	SNSによるトラブルが起こり、今後も注意・指導が必要である。お互いが話し合えば理解できることであっても、文字などの発信によりトラブルが起こるケースが多い。ネット・SNSの使用については継続的に啓発活動をしていかなければならない。	C	B	B	やはり、コミュニケーション不足によるトラブルはある。自分自身が中心で人の気持ちを十分理解せずに行動してしまう場合が多い。日頃から人の話をしっかりと聞くことから始まり、何を言おうとしているか理解することを育てることが大切だと思う。教員側からアプローチが、もう少し必要かもしれない。SNSの危険さなどを知っているようでも正確な情報を理解していない生徒も多いと思われ、講演会も全生徒が聞けるものを企画することも大切である。
3. 新しい生活様式を踏まえた安全・安心な学校生活空間	生徒支援	自尊感情の育成・人権を意識した他者理解	生活アンケートやHyper-QUIによる面談、教育相談から生徒の経過観察、働きかけを行っている。	自分も他人も大切に考え、安心できる学校生活を送ることができる。	生活アンケート内容の吟味、Hyper-QUI実施とその結果への早期対応、関係委員会での迅速な対応を行う。また職員研修を行うとともに、人権啓発ポスターの掲示も積極的に取り組む。	生活アンケートについては計画通り実施し、その後各学年で迅速に対応され関係委員会でも対策等が話し合われた。Hyper-QUIについても計画通り実施し、その結果への早期対応に努め、研修会でも対策等が話し合われた。人権啓発ポスターの掲示も積極的に取り組む。	B	B	B	生活アンケートを用いた方策は、今年度もスムーズに実施され定着している。アンケート内容は引き続き吟味し、次年度以降のICT端末でのアンケート実施に向けて検討していく必要がある。またHyper-QUIを通じては、生徒面談時の活用も合わせ、気になる生徒への早期面談と対応に取り組んだ。面談後は生徒の精神状態の安定が見られた。Hyper-QUIの研修会も充実したと思われる。人権啓発ポスターも積極的に掲示された。
	環境美化	環境教育の推進	ゴミの分別や、教室を含め校内外の美化活動に務め、意識を高めている。	環境を意識し、物を大切に使用することや公共の場の美化に努める行動が校内外で無意識にとれるようになる。	ポスターの作成など啓発活動を通じ、ゴミの分別や、ゴミを減らしたり、再利用するなど、環境を考えた行動がとれるようになる。	ポスターの蓋を踏んで開けるタイプに変更していただいた。ゴミの分別はかなり浸透してきたと思われるが、ペットボトルの処理に関しては一部出来ない。また、ゴミが満杯になっていてもそのままになっているゴミ箱も見かける。	C	B	B	事務の方におかげで、ゴミ捨て場など非常にきれいにしていただいている。2学期に教室のゴミ箱を取り替えていただいたが、3学期にはトイレのゴミ箱も替えていただいた。ゴミの処理に関しては、良くなっていると感じるが、満杯になっているものを時々見かける。
	事務	施設の整備・点検	業者への委託による点検、学期ごとの安全点検(各教室)、職員による指摘等による対応。	施設の整備・点検により、校内の安全・生徒の安全確保。	業者委託の項目については、報告書等を確認し必要箇所について修繕を行う。職員による見回り・定期点検を実施し、危険箇所等を未然に把握し、修繕を行う。	建物・設備等の点検を実施し、「所見」のあったものに優先順位をつけ、修繕対応を行っている。	B	B	B	施設・設備については老朽化は進んでおり、年度計画で修繕を行っている。今年度については、年度当初の早いうちに建物点検を実施し、「所見」のついたものの修繕を行った。(グラウンドフェンス修繕・北門修繕、事務室玄関修繕、二休門扉修繕等)エアコンについては、故障等が頻発し、教室移動等の対応をお願いした。新規入れ替えまでは至らなかったが、都度部品交換で対応を行った。
	教頭	コロナ禍での生活において感染予防への意識の確立	健康観察を継続する習慣が身につかない。土日の実施率は特に低いのが現状。また、公共の場でのマスク着用率が十分徹底されていない報告を度々受け	健康観察の意識づけとコロナ対策マナーの強化	BLENDでの健康観察入力のチェック及び指導の徹底。特別活動(道徳)で、マナーについての学習をする。	ホームルーム、放課後の部活動等を通じて、マナー学習や感染症拡大防止の意識付けを強化した。公共の場でのマスク非着用との連絡は減っている。また、昼食時の熱度の徹底も一層はかり、一定の成果は認められた。今後も気を緩めることなく感染症拡大防止に取り組む。	C	B	C	今後の感染拡大防止策として、ホームルーム活動の中で感染防止へのマナー学習を積極的に取り組む。部活動の試合等で、県をまたぐ移動の際に健康観察だけでなく、移動を生じた事前把握と事後対応を関係者で共有すること等の徹底が必要である。特にブレンドでの発熱状況を見逃し、対応できるようにしたい。
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	総務	情報発信の強化・保護者との連携	昨年から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、外部の方の来校については慎重に判断しつつ、各種行事を行っている。特に振興会役員活動に協力いただき、新しい取り組みの形を模索しつつ、活性化を試みている。	情報発信と保護者参加の活動を工夫し実施すること、本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	ホームページやBLEND、マチコミメールを利用した積極的な情報発信を行う。また、機関誌「北振」の発行、登校視察、講演会、各種説明会などを通して、本校教育について広くアピールする。	教育振興会の活動として、生徒指導部は登校視察を2回実施。文化部は「北振130・131・132号」を発行した。人権部は講演会や人権LHRを参観する予定であったが公開されず断念。企画体育部はすべての行事が中止となった。生徒募集関連では中学校対象入試説明会、塾対象説明会、学校説明会、個別相談会などすべてを予定通り実施した。昨年は中止となった高校説明会も西部地区の中学校24校で実施された。	B	B	B	昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大状況に合わせて、行事の実施・不実施の判断や日程・方法の検討を迫られる1年であった。その中で、新年度のスタートとなる1学期と、生徒募集関連行事のピークとなる2学期の後半は比較的感染が落ち着いたこともあり、説明会等の対外的な行事がすべて実施できたことは幸いであった。教育振興会の活動については保護者の交流を深めるための研修会や親睦会などの行事はほとんど実施できなかったが、登校視察や「北振」の発行を通して学校や生徒の様子を少しでも知って頂けたことは成果であった。来年度は例年の活動を継続された保護者がおられなくなるため、活動内容に更なる工夫が求められると予想される。ホームページやマチコミなど情報発信の仕方を含め検討を重ねつつ、本校の教育活動を広くアピールするための各種行事を今後も企画して例年であれば校外美化活動に100名以上の生徒が参加していただいていたが、今年度は感染対策の面で中止とした。また、実施した場合、参加人数やゴミ処理での感染の可能性など来年度以降のような形で実施するのはいいのか検討する必要がある。
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われている。	地域からの活動依頼に積極的に応えと共に、本校発案の活動に取り組んでいく。	地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に行っていく。	9月に校外美化活動を計画していたが、感染対策を取ることが難いため中止とした。部活動で実施している部もある。	D	D	D	
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	挨拶、交通マナー、服装指導などを目的として朝の門前指導を実施しているが、登下校の自転車の乗り方などの問題などがある。	登下校を中心として交通ルールを守り、事故のないよう心がけさせる。また地域のの方々への挨拶など積極的に行うようにしていく。	毎朝、職員が登校指導(挨拶、交通マナー、服装指導)を実施。また年間二回の「高校生マナーアップ挨拶運動」を地域の方々・企業の方々・保護者・生徒と一緒に実施する。交通マナーについては日頃より担任より話しをしていく。	毎朝、職員による登校指導は実施しており、挨拶・交通マナーについては日頃より意識しつつあるものの、学校より離れた場所での問題ある自転車の乗り方や接触事故は発生している。朝礼時に交通マナーについて、先生方より生徒への発信はしてもらっているが、今後も継続的に実施していく。コロナ禍という点もありマナーアップについては、コロナ禍ではあるが実習施設とも連携をはかり、何となく後期(10月)は時間の短縮で現地実習を行うことができた。専攻科2年生については国家試験に向けて学習を進め全員が受験することができた。自己採点ではあるが必修問題については8割以上の成績を取ることができた。あとは合格発表を待っている状態である。他学年については小テストや模試など活用し繰り返し学習を実施しているが、効果については学年により十分とはいえない学年もある。	C	B	B	時折ではあるが、登下校の際に正門にも立ち、交通ルール・マナーについて意識を持ってもらえるように心がけた。毎日、先生方にも2カ所の門前指導をして頂き、挨拶・交通マナー指導などにも対応して頂いた。登下校の際に自ら挨拶をする生徒も多く、日頃よりクラス・学年・部活などでの姿勢が出ているように思われる。挨拶・マナー・エチケットなどは、日頃の生活などの積み重ねや規範意識をしっかりと持たせるための日々の意識付けなどと思われるため、学校全体でそのような雰囲気や取り組みなどを継続していかねければならない。
	看護	医療・福祉機関との連携	感染予防に努め、福祉施設・病院等での実習をさせていた。本校の看護師国家試験の合格率はここ2年間は全国平均以上となっており、卒業生の多くが県内に就職することから、高い評価を得ている。	看護師国家試験合格100%をめざす。	与えられた課題(ミッション)の解決に向けて、グループ活動を通じて、アウトプットができるようになることを目標とする。	看護師国家試験合格100%をめざす。入学生に対し、地元大山の歴史と自然についてのミッションを与え、探究学習の流れをつかませる。	B	B	B	来年度もより一層感染予防に努め、実習を継続していきたい。生徒にも引き続き安全管理の観点から感染予防の重要性について指導していきたい。また、看護師国家試験に向けて学習がすすむよう、学習のしかたなど具体的に指導していく。一部、頭痛などが症状で出校停止となり受診もしない生徒がいる。健康管理は看護職を志すものにとって重要であり、症状出現の際は早期の受診ができるよう協力を求めている。
5. 特色ある教育の推進	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	昨年度の振り返りから、系統立てた取り組みが必要と考え、1年から開始することとした。	与えられた課題(ミッション)の解決に向けて、グループ活動を通じて、アウトプットができるようになることを目標とする。	入学生に対し、地元大山の歴史と自然についてのミッションを与え、探究学習の流れをつかませる。	探究学習の基本を踏まえた上で、2学期からの進路探究(職業ガイダンス)をスタートさせた。キャリアパスポートへの記入で、継続した進路探究を実施し、3学期のSKYを最後にまとめた発表とつなげた。	B	B	B	早期に本校進路探究学習の骨格を構築し、それに対応した教材の選定を今年度までに決定した。様々な活動が最終的には、進路探究につながるよう方向付けをしていきたい。

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C:取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D:より一層のまたは新たな方策が必要である